

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙1-23-16		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2274202395-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者主体の介護ができるように、介護職員は入居者1人1人の思いを尊重することを大切にしています。入居者の現在の状態を維持できるように、生活の中で家事作業や体操などを行って身体を動かす機会を作ること、レクリエーションなどを通じて楽しみながら頭を使うことを意欲的に取り組んでいます。現在外出する機会を作るのが困難な状況ですが、庭やベランダで外気浴を行い屋外に出る機会を作っています。

幅広い年齢層の職員が在籍しているため、若い力と豊富な経験が融合することができていることや、往診専門の主治医と緊急時などの連絡体制が整っていることは、入居者や家族の安心に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

館内は季節を感じる掲示物が整理整頓され、清掃が行き届いている。食事は職員が献立を考え手作りする事により食費がおさえられ、敬老会や誕生日には豪華なお弁当をとったり、職員がケーキをデコレーションして利用者と共に食に対する楽しみを作っている。毎日行っているアクティビティーは全職員が持ちまわりで、利用者が興味があるものを中心に無理強いせず、取り入れている。ベテランの職員が新人職員に様々なアクティビティーを指導している。遠出の外出は自粛しているが近所の公園に散歩に出掛けたり、畑やベランダに出て外気浴を行ない、重度の利用者も他の利用者として声を掛け合い、ふれあう機会を作っている。ご家族様アンケートの中でも「庭で歌声が聞こえる。職員が明るい。」というコメントが多く見られ、事業所理念を実践に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その日 その時 その一瞬を 愛と 笑顔と 輝きと」を事業所理念として実践に努めている。	開設当初から事業所理念は変わらず、法人の理念と併せて、年に2回の評価シートに理念を記入している。ホーム長との面談で理念に基づいた個人目標を設定し、半年ごとに確認を行い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会、防災訓練、子供神輿などのイベントに参加していた。(近年はコロナ禍で実施できず)	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。今年は人材センターから中学生の職場体験の申し込みがあり、受け入れを行った。散歩の際に近所の方と挨拶を交わすなど、コロナ終息後は地域の行事に参加して交流できるよう、つながりを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者に説明していた。(近年はコロナ禍で実施できず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため2カ月に1回書面での開催として報告事項を報告し、意見を聞いている。	運営推進会議の議事録を自治会長、民生委員、家族に郵送し、市役所、地域包括支援センターにはFAXをしている。意見記入の用紙と返信用封筒を同封するなどの工夫をしているが、意見が少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者についての報告、相談等を、生活支援課担当者と連絡を取り協力関係を築いている。	生活支援課担当者とは生活保護の利用者について相談、意見交換をして協力関係を築いている。以前、水害マニュアルについて行政の防災課とも連絡を取り合っていた。外部研修の案内は行政からメールで連絡をもらえる体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回、研修を年3回実施している。コロナ禍での感染防止、防犯対策の観点から玄関を施錠している。	マニュアル、指針は整備され、職員はいつでも閲覧できるようになっている。委員会のメンバーはホーム長と各階ユニットリーダーの3人で構成され、年に4回委員会を行い職員に内容を報告している。研修は研修委員を中心に年に3回実施、1回目は基本事項2回目は現状把握、3回目は対策である。	

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施や、職員のストレス軽減に気を配ること、入居者の状態観察等にも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援事業を利用する入居者がいたが、現在は該当する入居者がいないこともあり、学ぶ機会を持たず活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を説明した後に不明点や質問事項がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱の設置、運営推進会議の議事録を送付し意見や要望を受け付けている。	家族への連絡はホーム長かユニットリーダーが行うようにしている。月1回送っているお便りに必ず写真を同封して関係が途切れない様に配慮しているので家族にも喜んでもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中や、カンファレンスの時に職員からの意見を聞き、意見をまとめ管理者に報告している。	職員の意見や要望はリーダーを通してホーム長に伝わるようにしている。9月から月の会議を対面で実施しており、ほぼ全職員が参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社で職員の評価制度を設け、個々の能力や実績に応じて評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やホーム内研修を行いケアの統一や介護技術の向上を図っている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホーム職員と協力体制をとっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることでの本人の不安を理解し、傾聴と寄り添う気持ちで信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家庭での状況や家族の思いを理解し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等で状況を把握し最優先すべき支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士だけでなく、職員も共に暮らす仲間として互いに協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限もあり直接会う機会は少ないが、窓越しでの面会や電話での会話ができるように支援している。毎月近況報告もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限されているが、友人などと窓越しの面会や電話ができるように支援している。	現状のコロナの状況により、直接対面面会やガラス越し面会、リモートで面会を行う等工夫している。利用者の3分の1が携帯電話を利用して直接家族に連絡したり、家族から電話がかかってくると取次対応をするなどの支援をしている。	

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に歌やレクリエーションを楽しんだり、家事作業や手作業を分担して行うことで入居者同士の関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に対して、入居者退居後も必要に応じて相談に乗る旨の説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し、これまでの生活歴や職歴を考慮した生活ができるように支援している。	入居前に家族や本人に話を聴き、利用者の思いは職員が把握している。入居後は職員が利用者を観察して表情や態度を見てやりたいことや好きなことを推測し、支援して、職員間で情報共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントで細かく情報を聞き出し、入居後の生活パターンを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のやりたいことや能力を見極め、現状維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、計画作成や職員の意見を取り入れ、現状に即したケアプランを作成している。	利用者の担当者がモニタリングシートでモニタリングをし、カンファレンス会議で職員が話し合い、医師や看護師や家族の意見を参考にし、介護日誌や申し送りノートをみて計画担当職員が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況やその様子を記録に残すだけでなく、職員間で情報を共有しながら実践している。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて柔軟な支援ができるようにしている。訪問マッサージを利用するなどサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナがなければ、地域の行事等で近隣住民と交流したり、近所に買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に通う場合は、付き添う家族に状況を伝えたり、医師に状況報告の手紙を用意している。	入居前からのかかりつけ医受診の利用者は日常の様子を書面にして、家族経由で結果を口頭で聞いている。ほとんどの利用者は事業所の協力医の往診を月2回受けている。協力医は24時間対応で、他科の症状についての初期対応や相談に応じてもらえ、コロナ流行時にはリモートでの診察を取り入れた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化等の様子を記録し、医療職に伝えることで、必要に応じて受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の情報共有を行い、退院後の医療については、どのようなことができるか主治医と連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、グループホーム、主治医で終末期についての話し合いを行い、グループホームでできる看取り介護について共有している。	重度化、終末期の指針、マニュアルが整備され、入居時に重度化や終末期について説明を行い、家族に意向を聞き同意を得ている。状態が変化すると、医師が家族に状況を説明して、再度意向を聞き支援をしている。協力医の看護師は看取りの相談や研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故委員を中心に勉強会を開催したり、事故対応マニュアルを職員がいつでも閲覧できるようにしている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施して職員の意識を高めているが、近年地域の訓練や協力体制を築く話し合いはできていない。	年に2回、水害と総合の訓練を行っている。訓練の内容は防災委員が中心に計画し、コロナ前は消防署の意見を取り入れていた。ヘルメットや防災頭巾は取り出しやすい所に準備し、備蓄は事業所で管理しているが、今後は法人本部一括で管理する予定である。	前回の外部評価で課題となった項目がコロナ禍で進んでいないので、夜間想定訓練、液状化の問題と対応、発電機の使い方をマスターして災害に備えるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方として礼儀を意識した言葉遣いや対応をしている。職員間の申し送りの際に、氏名を声に出して聞こえてしまうことのないように配慮している	法人や事業所で研修を行い、管理者は、利用者の気持ちを考えた対応が出来るよう心掛けている。スピーチロックには常に気をつけているが、課題が散見した場合は管理者、リーダーが指導するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の決定ではなく、入居者本人がどうしたいのかを促し、思いや希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど全員で行うことに強制するのではなく、本人の意思を尊重して他のことをしたり自室に戻るなど、希望に沿う対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方には毎日好みの服を選んで頂いている。髪の毛の長さを気にする方もいるので、定期的に訪問美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや手伝いをして頂いたり、時にはリクエストに応えたメニューを提供している。食事後の片づけを手伝ってもらっている。	食材は3~4日分をネットスーパーに注文し配達してもらい、その日の調理担当の職員が献立を考え調理している。調理の手伝いは感染対策の為行ってもらわず、食器洗い、拭きを行ってもらっている。利用者の誕生日にはケーキを作ったり、敬老会には豪華なお弁当をとって、食事の楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いやアレルギーに考慮して、介護職員の手作りで提供している。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、できる人は自分で、できない人は介助して義歯洗浄もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛け、誘導をして、できる限り自力での排泄を促している。	タブレットへの記録で利用者の排泄パターンを把握し、夜間はポータブルトイレ、おむつを使う利用者もいるが、できる限り日中はトイレでの排泄を支援している。自立の利用者には声かけを心掛け見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	誰が何日排便がないか把握して下剤を服用する対応が多く、予防する取り組みに対してもっと意識を高くする必要がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する時間帯や全入居者が同じ間隔で入浴できるように目安は設けているが、個々の希望にも応じるようにしている。同性職員の介助を希望する方には応じるようにしている。	基本的に2日おきに午前の入浴だが、午後の入浴希望にも柔軟に対応している。拒否のある時には声かけや時間やタイミングを変えたり、同性介助の希望にも対応している。自立の利用者の入浴は近くで見守り支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や日中の昼寝の時間など、個々のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際に、状態に変化がないかを観察して記録し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の能力などに合わせた役割を持つことで張り合いのある生活を送って頂いている。個々の楽しみなどの把握についてもっと意識を高くする必要がある。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出る機会はあるが、職員の人員の問題で対応できない場合もある。その他の外出はコロナ禍でできていない。	事業所近くの公園へ職員と共に散歩に出かけたり、庭やベランダで外気浴をしている。利用者2人と一緒に車中ドライブを実行したが、好評だったので今後も外出支援を続けていく予定である。コロナ以前は家族や知人との外食や外出を楽しんでいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は居室内でお金を持っている方もいるが、コロナ禍で本人が使う機会は持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば応じているが、現状入居者からの訴えはない。家族からの電話や手紙のやり取りは行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者と一緒に作成したカレンダーを飾ったり、入居者が不快に思う物音や声掛けがないように配慮している。	居間の掲示用の壁に季節の移り変わりを1本の木で表現していく作品が掲示され利用者も参加している。書道の先生をしていた利用者にも毎月季節を表す文字を毛筆で書いてもらっている。共有の場所は整理整頓され、職員の清掃と利用者のモップがけで清潔さが保たれ、温度、湿度管理は計器で行い、換気もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と会話できるように席を隣りにしたり、または静かに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に今までの生活の継続ができるようになじみの物等を持ち込んでもらうように説明している。	衣類や布団等が充分しまえるクローゼットや洗面台が設置され、居室で歯磨きや身だしなみを整える事が出来る。自立されている利用者の中には、部屋の掃除をしたり、携帯電話を所持し自由に家族と会話をして一人の時間を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の導線に物を置かない、手をつけるところを作る等の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙1-23-16		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202395-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者主体の介護ができるように、介護職員は入居者1人1人の思いを尊重することを大切にしています。入居者の現在の状態を維持できるように、生活の中で家事作業や体操などを行って身体を動かす機会を作ること、レクリエーションなどを通じて楽しみながら頭を使うことを意欲的に取り組んでいます。現在外出する機会を作るのが困難な状況ですが、庭やベランダで外気浴を行い屋外に出る機会を作っています。

幅広い年齢層の職員が在籍しているため、若い力と豊富な経験が融合することができていることや、住診専門の主治医と緊急時などの連絡体制が整っていることは、入居者や家族の安心に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その日その時その一瞬を愛と笑顔と輝きで」をホームの理念とし、入居者様の今を大切にして笑顔で過ごせるように日々実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	以前は中学校の慰問が年2回あり、地域の中学生と交流を行っていましたが、コロナ禍により現在はできていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者に説明していた。 (近年はコロナ禍で実施できず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため2カ月に1回書面での開催として報告事項を報告し、意見を聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者についての報告、相談等を、生活支援課担当者と連絡を取り協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回と勉強会を年3回行い、職員に身体拘束について再確認する時間を設け身体拘束のない介護を心掛けている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き職員同士で意見を出し合い対策方法を共有して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援事業を利用する入居者がいたが、現在は該当する入居者がいないこともあり、学ぶ機会を持たず活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を説明した後に不明点や質問事項がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱の設置、運営推進会議の議事録を送付し意見や要望を受け付けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話の中や、カンファレンスの時に職員からの意見を聞き、意見をまとめ管理者に報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社で職員の評価制度を設け、個々の能力や実績に応じて評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やホーム内研修を行いケアの統一や介護技術の向上を図っている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホーム職員と協力体制をとっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることがあれば、寄り添い傾聴する事で新たな環境になじめるように配慮し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時やケアプラン作成前に家族に話を聞きグループホーム内でできることを検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで本人の状態確認や家族への聞き取りを行い必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできるところは自分で行ってもらい、できないところは職員がお手伝いをしている。入居者にも家事手伝いをして頂き、お互いに協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に毎月月次報告書を送り入居者の近況報告をし、必要があれば協力依頼している。コロナ禍でも面会方法を工夫したり、電話で話をするなど本人と家族の繋がりを継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人などが面会に来て交流できるようにしている。(現在はコロナ禍で面会制限あり)		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情表現や言葉を発することができない入居者でも一緒にレクリエーションに参加することで、他の入居者と関わることができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に対して、入居者退居後も必要に応じて相談に乗る旨の説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日々の支援の中で本人の思いや不安などを聞き取り、カンファレンスの時に職員間で共有して検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントの時に、本人、家族、介護従事者等から生活歴などの聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中で入居者1人1人の生活パターンの把握に努めている。1人1人のできること、できないことを見極め、本人の能力を活かせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、計画作成、介護職、医療職で情報共有し本人に必要な支援を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービスが実施できているかモニタリングを行い、各職員の意見を共有してケアプランを作成している。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、訪問歯科、訪問マッサージなどのサービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時のアセスメントなどで本人に必要な地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にそれまでのかかりつけ医を継続するか、事業所と連携している医療機関と契約するかを説明して選択してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師が毎日のように訪問しているため、その都度情報を伝えることができる。また、電話連絡する体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の情報共有を行い、退院後の医療については、どのようなことができるか主治医と連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、グループホーム、主治医で終末期についての話し合いを行い、グループホームでできる看取り介護について共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の新人研修や事業所内で事故委員を中心に指導をしているが、定期的な訓練はできていない。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施して職員の意識を高めているが、近年地域の訓練や協力体制を築く話し合いはできていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員として入居者の尊厳を守る対応ができるように指導しているが、改善が必要な部分もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	新人研修で自立支援の説明で自己決定の大切さを説明しているが、意思表示ができない方の対応など職員間で検討が必要な部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人1人のペースを大切にしているが、共同生活の中で全体の生活の流れを優先してしまう部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる入居者もいるが、意思表示ができない方についてはその人らしさが何か検討する必要がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた野菜の選別、食器洗いや、食器拭きなどをできる方に手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食べる量に合わせて調整する、必要時介助をする、水分摂取が足りない場合の促し、飲みやすい物を提供する等の工夫をしている。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方にはやって頂き、できない方には職員が介助して毎食後に口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツは使用せずトイレに座って頂く介護を心掛けているが、オムツを着用してベッド上で対応している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	誰が何日排便がないか把握して下剤を服用する対応が多く、予防する取り組みに対してもっと意識を高くする必要がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する時間帯や全入居者が同じ間隔で入浴できるように目安は設けているが、個々の希望にも応じるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や日中の昼寝の時間など、個々のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際に、状態に変化がないかを観察して記録し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の能力などに合わせた役割を持つことで張り合いのある生活を送って頂いている。個々の楽しみなどの把握についてもっと意識を高くする必要がある。		

静岡県(グループホーム草薙)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出る機会はあるが、職員の人員の問題で対応できない場合もある。その他の外出はコロナ禍でできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は居室内でお金を持っている方もいるが、コロナ禍で本人が使う機会は持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば応じているが、現状入居者からの訴えはない。家族からの電話や手紙のやり取りは行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に注意することや、季節感のある飾りつけなどで居心地の良い空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と会話できるように席を隣りにしたり、または静かに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に今までの生活の継続ができるようになじみの物等を持ち込んでもらうように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の導線に物を置かない、手をつけるところを作る等の工夫をしている。		